



◆ **講師：久保 達彦 先生**
Lecturer: KUBO Tatsuhiko

広島大学大学院 医系科学研究科 公衆衛生学 / 教授

(Professor, Department of Public Health and Health Policy, Graduate School of Biomedical and Health Sciences, Hiroshima University)

◆ **日時：令和4年9月21日（水）17:30～**

September 21 (Wed.) from 5:30 p.m.

今回のセミナーは、Zoomで開催します。This seminar will be held via Zoom.

高度医療人材養成プログラム受講生の方はレポート提出にて「選択科目2単位」となります。
事前申込締切：9月18日（日） 参加URL：9月19日頃にご案内予定

Abstract

東日本大震災時、我が国には災害医療チームが利用する標準カルテ様式がなかった。また診療日報様式も未整備であった。そのため災害医療チーム間での診療情報の引継ぎができず、また、本部は災害医療チームがどこで、どのような患者を、何人診療したのかを把握することができなかった。この教訓化のために、日本救急医学会、日本災害医学会、日本診療情報管理学会、日本医師会等の関係団体が結集して「災害時の診療録のあり方に関する合同委員会」を組織し、診療記録様式（災害診療記録）と診療日報様式（J-SPEED 診療日報）を提唱した。これらの様式は熊本地震（2016年）で大規模に実用され、統一様式による診療情報の記録と引継ぎが実現するとともに、J-SPEED 診療日報により、災害対策本部が被災傷病者の地理分布並びに疾病構造を把握できるようになった。この成果に注目した WHO は、J-SPEED 方式を WHO 国際標準 Emergency Medical Team Minimum Data Set (MDS)として採択した。東日本大震災の教訓に基づく変革への成果と展望を報告する。